



SCOUT CHIBA

スカウト ちば

平成23年度の目標
スカウト運動の基本に基づき
より良いスカウトを育てよう!
~まず班制教育の徹底~

発行：日本ボーイスカウト千葉県連盟

運動拡大委員会

発行責任者：木村 政夫

編集長：上野 孝

〒263-0016 千葉県稲毛区天台6-5-2 千葉県青少年女性会館内

TEL 043-287-1755 FAX 043-287-1786

<http://www.scoutchiba.jp/>

	回数	隊数	団委員	指導者	スカウト	その他	計	ビーバー (BVS)			カブ (CS)			ボーイ (BS)			ベンチャー (VS)			ローバー (RS)		
								隊	指	ス	隊	指	ス	隊	指	ス	隊	指	ス	隊	指	ス
登録数	115	546	1,489	2,159	5,078	2	8,728	106	404	838	115	863	1,408	115	491	1,427	114	264	763	96	137	642
前年度末数	115	549	1,494	2,253	5,282	2	9,031	110	416	843	115	928	1,514	115	496	1,468	113	266	838	96	147	619

[加盟登録状況]平成24年3月末日現在

第2回千葉県ベンチャー 参加スカウトの感想

平成24年3月30日~4月1日 ボーイスカウト日本連盟那須野営場

船橋地区 船橋第12団 ベンチャースカウト隊
鈴木 翔大(第3グループ)

議長として 議論の白熱、迷走、皆が「Creating a better World」という大きな目標の下、考えを沢山、沢山出してくれました。そして私たちは千葉の思いとして採択文を提案することができました。皆の力によりこれを成し遂げられたのです、皆には感謝の気持ちでいっぱいです。第2回千葉県ベンチャーで得たものを地区に持ち帰ってもらい、新たな始まりを作り出せば幸いです。

船橋地区 船橋第11団 ベンチャースカウト隊
安原 真(第4グループ)

フォーラムに参加して(3月30日~4月1日) 最初は皆が違う意見を言い合い、果たしてまとまるのかと思いましたが、それぞれの意見に共感し、前向きに意見交換することで最終的に採択文採択につながりました。私自身もグループ長として、一日目は夜遅くまでグループ長同士で話し合いをし、所々で集中力が切れたこともあったが、2日目でまとまった。全員でしっかりフォーラムを進めていけたことが自信になった。

船橋地区 印西白井第2団 ベンチャースカウト隊
鈴木 優志(第5グループ)

キャンプファイア(3月30日夜) 今回のスカウトフォーラムではキャンプファイアが一番印象に残りました。今までこんなにたくさんの人数で火を囲んで歌ったり、話を聴いたりすることがなかったので、大変貴重な経験ができました。場長さんの話みたいへん興味深い内容で、この那須野営場がスカウトにとって聖地であるという話を聴いて、この聖地で2泊3日のキャンプをすることが出来るととても誇らしい気持ちになりました。



市川・浦安地区 市川第1団 ベンチャースカウト隊
太田 勇士(第1グループ)

パイオニアリング(3月31日午前) 2日目に、パイオニアリングで三脚信号塔を作りました。ロープワークの予習をしてきたけど、実際にやってみると難しく知識と実践では大きな差があるんだと実感しました。でもやることで知識が技能として身についたので、これを後輩に教えていきたいです。途中の雨で、完成まで時間がかかってしまったけど、張り綱無しで人が昇り降りできるものが出来た時、ものすごい達成感を得ることができた。

東葛地区 柏第7団 ベンチャースカウト隊
石堂 浩暉(第2グループ)

隊集会「竹細工」(4月1日午前) ローバーの先輩から場長さんが竹とんぼを教えてくださいと聞き、わざわざ場長さんが私たちのために「竹とんぼ」という比較的作りやすい物に時間を割いてくださることに驚いた。実際の製作では一人ひとりがそれぞれ個人で削る作業が中心であるが、スカウトの基本行動がしっかりとできる余裕がある「竹とんぼ」は全てが非常に充実していて、遊戯面、スカウト精神面共にしっかりとできたとと言える。



第11回日本アグーナリーへ向けて

松戸・鎌ヶ谷地区 松戸第7団 ボーイスカウト隊 ライオン班班長 佐藤 直樹



僕は前回の日本アグーナリー大会にはカブスカウトで参加しました、プログラムではパンを焼いたり、乗馬に挑戦したりして楽しかった思い出があります。

あの時から4年たち、ボーイスカウトとし

て最後の夏を第11回日本アグーナリーに参加することになりました。これまでの経験をいかして頑張ろうと思います。みんなそれぞれ得意な面や苦手な面があるので、助け合って活動できるようにしたいです。また、いろいろな事でサポートして下さる方たちへ、感謝の気持ちを忘れずにしたいです。

「We can あなたといれば」という合言葉を声に出して言ってみると、チャレンジする力がわいてくる感じがします。中学生になって

学んでいる英語で、外国の人と話せたらいいなと思います、そして、みんなでアグーナリーならではのプログラムを楽しんで、良い思い出をたくさん作りたと思っています。



国際
交流

第10回中国(台湾)ジャンボリー派遣隊に参加して

船橋地区 印西白井第2団 ベンチャースカウト隊 鈴木 寿延

台湾派遣の一番思い出に残ったのは言語です。それがもとても大変な思いをしたことありましたが、言葉のおかげでたくさんの人と仲良くなることもできたのです。

派遣前、言葉の壁は不安の種でした。一週間日本語を話す人は派遣隊のわずか7人。日本語以外で意味のわかる英語もほとんどの人が母国語ではない、という環境で一週間生活できるのかどうかということです。実際僕が派遣されたジャンボリーは中国(台湾)ボーイスカウト創立100周年記念ジャンボリーがAPR(アジア太平洋地域)ジャンボリーを兼ねたもので一番多く話されていた言葉は中国語でした。残念ながら中国語はできなかったので僕達日本派遣団と他隊との交流は全て英語でした。

ジャンボリーでの人々との出会いはとてもいい思い出です。たくさんスカウト、リーダーが英語で話しかけてくれました。自分も、そして相手も普段使わない英



語で、また英語がわかってもらえないときは身振りで、相手が伝えようとしてくれる熱意に自分も本気で答える。なかなか得ることのできない経験だったと思います。

余談ですが Your English is so good と言ってくれた人がいたのをとても良く覚えています。(文法が間違っていますが…それでよかったのです)

現地での生活は不安に反して大変に充実したものでした。現地での日本派遣隊の人気は驚くほど高く、人に囲まれて動けないことすらありました。それほど沢山人達が日本隊に興味を持っていたのです。“台湾の日本に対して友好的で良い印象を持っている人が多い”という話は前から聞いたことがありましたが、その実際は想像以上のものでした。話を聞いてみた人々はみな、日本になにか特別な感情を持って

いたように思います。“日本がいなければ今の台湾の発展はない”と断言していた台湾スカウトもありました。僕はその言葉に対して驚きと同時に、ある種の怖れのようなものを感じました。また深く反省する気持ちも持ちました。

自分は自分の母国についてあまりにも知らない、そして日本を慕ってくれている人がいることや、その人達のことを知ろうとすらしてこなかった、と。僕の知っているのは日本という国のほんの一面に過ぎないのではないか、そう思うようになりました。日本人が思っている日本と、

外国人のイメージする日本とは、きっと同じものではありません。派遣から帰ってきた今、日本がどういうふうに見られているのか客観的に知りたいとおもいます。もっと外国のことを知りたいと思います。そして海外の地でまた日本のことを知りたいと思います。

国際
交流

オーストラリア派遣報告

松戸・鎌ヶ谷地区 松戸第9団 ベンチャースカウト隊 山本 彩



私は2011年12月27日から2012年1月5日までホワイトホース市派遣へ行ってきました。

この派遣は姉妹都市である松戸市とホワイトホース市のスカウト達が2年に一度ずつお互いの市を訪問している活動の一つです。今回は松戸・鎌ヶ谷地区スカウト6人とリーダー3人の9人が参加しました。現地ではスカウトは2人ずつ、リーダーは1人ずつ各家庭にホームステイをし、それぞれの生活をしました。

私が参加しようと思った理由は3つあります。1つ目は海外のスカウトと交流して、友達になりたいと思ったからです。第15回日本ジャンボリーや日韓スカウト

フォーラムに参加し、海外のスカウトと交流する機会がありました。その時たくさん文化の違い等も学べ、楽しく交流できとてもいい経験だったと思えるからです。2つ目は英語を学びたいと思っているからです。学校では学べないような日常生活に必要な英語や、コミュニケーションが身につけられるかなと思ったからです。3つ目は日本だけでなくもっと海外の文化も知りたいと思ったからです。

今回この派遣に参加し、たくさんことを吸収することができたと思います。オーストラリアの文化はもちろん、家の広さや人間性などの点における日本との違い、水の大切さも学びました。そして何より「協力すること」「みんな仲間」であるということが大切だと感じました。



現地のGilwell Parkというところで一泊キャンプが行われました。そのキャンプ中に日本派遣団は夕食に牛丼とカレーを作り日本食を紹介しました。食後オーストラリアのリーダーが机を拭いてくれていたので「私がやります」と言ったら、「平気だよ、Mate(仲間)だから助けあわなきゃ」と言ってくれました。この言葉を聞いたときは感動しました、今でも心に残っています。

またホワイトホース市の現市長さんや元市長さんにもお会いすることができ、とても貴重な体験をしました。

日本文化も海外に広めることができたと思うし、海外の文化やスカウト活動も体験でき、とても楽しく充実した派遣だったのでこのメンバーと参加できてよかったなと思います。



県内各地区の隊活動便り

とも お友だちがたくさんあつまった!

北総地区 野田第7団 ビーバースカウト隊 隊長 上田亜希子

北総地区ラリーが、11月27日 野田市清水公園でおこなわれました。

ビーバースカウト隊は「みんな なかよし」をテーマに、元気いっぱい参加をしました。

学校やようち園のお友だちにも、お知らせをしたので、たくさんのお友だちが集まりました。

私たちビーバースカウトと、きょう参加のお友だちとでチームをつくり、ひろばの6つのチャレンジコーナーをまわって、カードにスタンプをもらいました。

6つのチャレンジコーナーのしょうかいです。

①竹ポックリコーナー 竹ポックリで歩くのは初めてでした、けんけんもできました。②コマづくりコーナー ダンボールと竹ひごでコマをつくりました、まわすと虹色になりました。

③くもの巣コーナー テープにつけてある鈴をならさないで、くもの巣をとるのはとてもむずかしかったです。④紙ヒコーキコーナー 秋のそらに、ヒコーキがよくとびました。

⑤あまぎけコーナー あたたかいあまぎけで、きゅうけいです。⑥おせんべいコーナー じぶんで、おせんべいを作りました。おせんべい組合のおじさんたちがおしえてくれました。おいしかった!

お昼ごはんのあとは、ラリーに集まった全員で、「みんな なかよし」のシャボン玉をとばしました。ありがとうございました!



さむ 寒くたって元気なかつどう4連発

印旛地区 佐倉第3団 カブスカウト隊 副長 山下真智子

きびしい冬でも、元気いっぱいの佐倉第3団のカブスカウト隊は新年恒例のお餅つきにちょうせん。白にうつしたもち米から上がる湯気にさそわれ、上着をぬいでうでまくり。

リーダーのつきかたまねて、カブスカウトは大人よりの大きな杵をヨロヨロとふり上げ、「よいしょ!」元気なこえでつきました。おいしいお餅に笑顔いっぱいのかつどうから今年スタートできました。



つぎは城下町佐倉のハイキング。武家屋敷で霜柱とたわむれて、堀田邸では芝生広場の坂でゴロゴロころがって冬の芝生とたわむれました。課題の俳句では「武家屋敷 いっぱ

いふんだ 霜柱」たくさんの力作がそろいました。

二月は市原第3団の山本隊長のご尽力により、合同でアイススケートにちょうせんできました。はじめてやるスカウトも30分もすれば一人まえの顔をすべっています。でもチャレンジ課題の、クロスカットをクリアにはもうすこし時間がかかりそうです。

さいごは氷上ゲームでたのしくかつどうを終えました。

B-P(ビー・パイ)祭は「友情の日～冬の大運動会」。

チーム力でたたかった種目は障害物競技の「ロックマイソウル」。ビーバースカウトからカブスカウト、ボーイスカウト混成チームの対抗せん、チームの勝利のためにスカウトはみな真剣、すてきなスカウト達です。寒い冬だけど、いつも心をあつくしてくれるスカウトにかんしゃ。



See You Again!

千葉地区とフィリピン・ケソン市は、お互いにスカウトを派遣する交流を30年の長きにわたり続けている。昨年末のこのプログラムには、ベンチャースカウトとボーイスカウトの計5人が参加した。

千葉地区 千葉第27団 ベンチャースカウト隊 川相拓也

(第14回ケソン派遣隊)

「フィリピンはとても刺激的だった。なかでも一番心に残っているのは、クリスマスイブに連れて行ってもらった教会だ。多くの人が集まって聖職者の話を聞いたり、聖歌を歌う姿を実際にこの目で見る事ができた。

ホームステイを終え、避暑地で有名なタガイタイ市でフィリピンのスカウトと合同キャンプをした。フィリピンのスカウトはとてもフレンドリーで言語の壁など関係なかった。会うたびに声をかけてくれたのですぐに友達になることができた。ター



ル火山にも登ったが、景色を眺めながら飲んだココナッツジュースは最高だった。

キャンプもあつという間に終わり、私たちが日本に帰る時が来た。私のホストファミリーも見送りに来てくれた。別れがつかなく、まだ日本に帰りたくないと思った。空港を離れていくバスから何人も手を振り、私達も力強く振りかえした。

フィリピンでは英語で苦勞することがたびたびあったのでこれから鍛えていこうと思う。また、異文化に直接触れるということは今まで学んできたことを昇華させてくれた。何事も体験した方がいいと切実に感じた派遣であった。

さらに私はフィリピンに行き大事なものを得た。それは友達だ。スカウトの「おきて」に『スカウトは友情にあつい』とある。私はこの友情を一生大切に、いつかまたフィリピンのみんなに会いに行きたいと思う。」

ボーイスカウト隊



我ら 班長!!

Patrol Leader



ボーイスカウト隊の基本は班長を中心とした班活動です。班長たちは、学校での勉強や部活動、そして塾など忙しい日々を過ごしています。その中で班長は、責任を果たすために班集会を計画・開催し、そして班員の指導をしています。今回は数多くの活躍する班長の中から各地区代表の班長に、抱負や苦労話を紹介してもらいます。

計画が大事

千葉地区 千葉第8団 ボーイスカウト隊 トラ班班長 亀田 遼太郎

私が班長になってとても重要だと思ったことは、班長には班員をまとめて、リードしていくという重大な責任があることと、それを自覚することが必要だということです。

そう思った理由は班集会にあります。班集会には「計画」と「実施」、「報告」がありますが、私は計画が一番大事だと思います。計画がきちんとしていないと、何もできないまま班集会が終わってしまうからです。そうなら

ないために班員が楽しめ、知識や技能を身につけることができる計画を立てなければいけません。しかしそれは難しく、初めはそのような計画を作ることができませんでした。しかし、計画と実施、反省を繰り返しているうちにだんだん思うようになりました。これからは、そんな責任感も持ちながら知識や技能を向上させるため、スカウト活動に励み、もっと上の級を目指してがんばっていきたいと思います。



気持の切替え

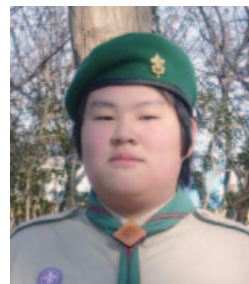
船橋地区 船橋第14団 ボーイスカウト隊 ハヤブサ班班長 山本 昌輝

僕は、ボーイスカウトで心に決めていることがあります。それは、切替えの気持ちです。切替えの気持ちを常に持って、ゲームをする時には、ほかのことはやらずにゲームだけをやり、仕事をする時にも集中して行う事が大切だと考えています。

しかし、班長として皆にそうしてもらおう事は、簡単ではありません。指示をしても、聞かずに、遊んでいたりして困った事もありました。そんな時は 指示を聞

いてくれるように、いろいろな工夫をしました。火の回りで遊んでいる班員を強く叱ったり、刃物は危険なので、ちゃんと保管をしたり、人が話を始めると班員に静かにするように言いました。気持ちを切替えて集中することが大切だと、班員に教えています。

常に、その事を考えてスカウト活動をしています。気持ちを切替えてがんばりましょう。



班長になって

東葛地区 柏第2団 ボーイスカウト隊 イーグル班班長 古鍛冶 賢

ぼくは、去年班長になりました。(1つ上の先輩がいないので)先輩がやることを(中1の)ぼくがやっています。だから始めはすごい緊張したり不安でした。また班員に指示も出せずに怒られたりしました。だけど今は、少しずつ指示が出せるようになったり、班員に技能を教えられるようになりました。それはぼくにとっての大きな成長だと思いました。

だけど前の班長にはまだまだ追いつかないから、もっと頑張って少しでも追いつけるようにしたいです。そのために自分の技能を高めて班全体の技能のレベルをみんなで高めていきたくと思います。

ぼくは、班員全員が自分から積極的に動き時間通りに行動できるようにすることを目標として、これからのボーイスカウト活動を行いたいと思います。





班長の仕事とは

北総地区 流山第5回 ボーイスカウト隊 ホワイトベアー一班班長 村上 貴俊

班長として苦勞していることは、班員の扱い方です。班員ごとにどれくらいきつく言っているのかとか、どういふふうに指示を出したら聞いてくれるかなど、全班員分把握できるまでは班集會も班キャンプも全然うまくいなくて本当に苦勞しました。今では、班長2年目ということもあり、班員の扱いにも慣れ、集會もキャンプもスムーズに進めることができます。僕は、班長の仕事とは、班をまとめることはもちろんですが、それと

同じくらいに、班員の技能を向上させること、そして班員がもともと持っている能力を引き出してあげることだと思っています。今まで、活動の時全然言うことを聞いてくれなかった班員も、活動に参加させると、「料理が得意だ」とか、意外な特技があったりするはず。この班長という仕事には常に責任が付きまといます。しかし、とてもやりがいがあり楽しみも多いので頑張ってください。



1人の班長として

松戸・鎌ヶ谷地区 松戸第11回 ボーイスカウト隊 スノーウルフ班班長 岩城 壘

僕の団は小さく、人が少ないので、2年目から班長、次長をやるような状態でした。したがって、自分たちで良いと思う方法を考えて行動するしかありませんでした。しかしそんな僕に転機が訪れます。それは世界ジャンボリーへの参加でした。上班や班長の仕切り方を見て勉強になりました。その結果、僕の抱負は「とにかく上手く班を仕切る。」になりました。世界ジャンボリーから2週間経って、団キャンプ。スカウト1人1人に考えて行動

をさせて、終わった後で反省点、注意すべき点を伝えました。班長としてスカウトの行動中に口をはさまないことにしました。これで、スカウトから「班長に叱られた。どうしよう。」という焦りを消したのです。これで活動は上手いき、1年間この方法で頑張ることにしました。

やってみると班長は大変でしたが、それ以上に大きなことを勉強することができたと思います。



地区技能大会に参加して

香取東総地区 香取第3回 ボーイスカウト隊 タカ班班長 山下 夏実

地区技能大会において、私達の班は最優秀班に選ばれました。正直に言って私達の班が選ばれるとは誰も思っていませんでしたが、みんなで一生懸命に課題をこなし頑張りました。

まず、ハイキング中はみんなで協力するようにしました。例えば、歩いている途中では空き缶等見つけて拾ったり、各ポイントでは役割を分担したりしました。

また、最後のポイントまで全て回り全コースを歩くことが出来たことも良かったです。途中、疲れが出てき

て遅れる班員もいましたが、励ましあって歩き、時間をオーバーしても歩き通せたことでとても満足できました。

最優秀班に選ばれたのは、普段の活動が活かされたものだと思います。その例として、活動中の空き缶拾いやソングを大声で歌ったことです。それが、ポイントになるとは思っていませんでしたが、指導者の方はその辺も良く見ていて評価してくれました。そして、なんといつでも班員が協力して役割をうまくやれたことです。

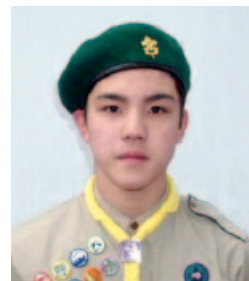


班長として

上総地区 茂原第2回 ボーイスカウト隊 イーグル班班長 小泉 由輝

僕は遊ぶときはとことん遊び尽くし、楽しく活動する、だけど真面目にやるべき時は真面目にやる、このメリハリをはっきり区別できる班を目指しています。いつも真面目だと疲れるし、班員も気持ちよく動けないと思っているからです。今では班員の皆も僕の目標に気付いたのか、普段は雑談などで盛り上がっていても、班会議ではきちんと発表したり、指示したことを文句ひとつ言わずにやってくれたりするようになりました。そんな班員に恵まれた僕は幸せです。

さらに、何でもできる班長の下で的確に動ける班になることを目標にしています。そのためにも、僕は班員に尊敬され、頼りにされる班長になりたいのです。この目標の下、自らの技能を高め、後輩たちにその技能を伝え、後輩がさらに下の後輩に教えられるように努力しています。ですから、少しずつ成長する後輩の姿を見ることが、ボーイスカウト活動をしている中で一番の喜びです。



Patrol Leader
我ら 班長!!

「周りを見る」大切さ

南総地区 袖ヶ浦第1団 ボーイスカウト隊 スネーク班班長 渡辺 海斗

僕は、前年度は次長をしていて班長のサポートをしていました。
そして隊長や班員から「班長をやってくれないか」と言われ、僕は次長をやったのでそんなに大変ではないだろうと思い班長になりました。でも、班長になって大変な事や苦勞する事がたくさんありました。
そのなかの1つは、「周りを見る」ということです。班会議や隊集会で班長が指示を出さないと班員はあまり行動してくれません。なので、班長は周りを見ながら

班員の行動を見るということを忘れてはいけないと思いました。
また、「仲間同士で助け合う」ということも重要です。やっぱり班長の僕1人では、みんなが楽しいボーイスカウトの活動が展開できません。班員に注意しながら協力し合ってみんなも楽しいボーイスカウトの活動ができるし、僕も班長として成長できるんだろうと、班長をやってみて思います。



班長として

市川・浦安地区 浦安第2団 ボーイスカウト隊 コブラ班班長 谷野 雄三

班長をやって苦勞した事は、なんでも時間に遅れない様にすることでした。
朝の点検前に個人装備のパッキング指示を出すと、自分の荷物の片づけが出来ていないのに、他のパッキングを手伝う班員が居たり、ハイキングの時には全員のペースに合わせ、後方で遅れてしまう班員に声をかけたり一緒に歩いたりしました。
隊長からは班の中でタイムキーパーを決めて時間を

管理しろと毎回言われましたが、時計を持ってない班員も居て、どうしても自分がやることになってしまいます。
中学3年生になると隊付になるので、班長として活動に出られるのもあと少しですが、出来るだけ多く活動に参加して菊章を目指したいと思っています。
次は隊付、隊全体を見ながらベンチャー上進に向けて頑張ります。



班長として

八千代・習志野地区 習志野第2団 ボーイスカウト隊 コブラ班班長 尾形 凱

自分は、中学一年生の冬から班長を務めています。
始め、周りの班長は皆中学二年生の先輩方が務めていたので、自分で上手にコブラ班をまとめられるか不安でした。それに、班員に教えられるほど基本の技術が身につけていませんでした。しかし、次長の大河内君が自分の大変な時にはフォローしてくれました。そのお陰もあって二人で上手に連携して何とか班をまとめることが出来ました。
班長の職務になれてくると「班で一番早い行動!」とい

う目標を自分の中に持つことが出来ました。例えば日々の活動の中で、素早く行動すると時間に余裕が出来ます。そこで様々な新しい事を学ぶことも出来ます。そうすれば班活動が楽しくなります。
これからも、楽しい活動をたくさんしていきたいです。
今後の目標は日本ジャンボリーや世界ジャンボリーに班長として参加したいです。



責任ある行動

印旛地区 八街第1団 ボーイスカウト隊 ブラックバード班班長 魚地 隆宏

僕の班は今年中学1年生になるスカウト2人と中学3年生になる2人の4人の班です。班員が少ないのでキャンプの野営準備には大変なものがあります。
野営準備は日頃の訓練が必要です。ロープやテントの設営は活動に参加したくらいでは覚えられません。自主訓練も必要です。活動日以外にも団キャンプ場に集まり、訓練を行いました。
訓練の時に厳しくなりすぎ班員のやる気をなくさせた事もありました。

活動を円滑にするためには、訓練も必要ですが、楽しまなくては続けられないと思いました。
活動を楽しむために活動計画を班長、次長に任せず、班員が順番に計画し実行することにしました。そうすることで責任感や自覚を持った行動がとれると思うし、スカウトが積極的に発言も出来るようになったと思いました。普段の生活の中でも、スカウトの決まりを守り、責任感ある行動が取れるスカウトになろうと努力しようと思います。



千葉県連盟では、基本方針に班制教育の徹底を掲げています。スカウト運動の目的は、少年を、次代を担う社会人に育てることにあります。信頼される社会人としての資質は、責任感・指導性・協調性・自信を持たせることにあります。そ

の資質は、少年を信頼して一人ひとりに責任を任せ、班運営を任せ、班意識を高揚する班活動をするによって培われます。班制教育は成人指導者の導きにより少年たちに役立つ変化のある活動を与え、同じ「ちかい」と「おきて」をもつ他の

班と競い合うことによってスカウト活動を進めます。その基本は“班及び隊の活動に参加”することによって自分の責務を果たし、野外生活を主とした“体験学習を通してよき社会人たる資質の向上を図る”ことにおかれています。

ゲット!!

富士章・千葉県連盟隼章・菊スカウト章 取得スカウト

平成23年8月20日～平成24年2月21日

富士章	
岡田 実	八千代2団
浦邊 賢吾	野田1団

千葉県連盟隼章	
米澤 堯	千葉 27団
岡田 実	八千代 2団
中野 聡	流山 5団
渡辺 摩周	松戸 9団
福田菜衣子	千葉 1団
片寄 翔太	八千代 2団

菊スカウト章	
大塚 真由	船橋 14団
森下健太郎	船橋 14団
浪越 圭右	船橋 20団
毛戸 宇仁	千葉 8団
長島 榛菜	柏 1団
尾崎 類	柏 1団
日笠 義隆	柏 5団
北原 一樹	大網白里1団
宇山 康太	富津 1団
中村 友美	野田 1団

菊スカウト章	
中里 春菜	野田 1団
村松 裕太	野田 7団
吉田 優広	千葉 14団
篠原あや佳	木更津 2団
船田 瑞樹	木更津 2団
庄山 拓磨	木更津 2団
齋藤 舞華	木更津 2団
竹内 賢治	船橋 3団
平林 哲	船橋 3団
山本 武宏	船橋 3団

菊スカウト章	
出口 友也	船橋 5団
斉藤 幹貴	市川 6団
宮内 大輝	柏 5団
田村 健汰	千葉 13団



宗教章

平成23年8月29日～平成24年2月21日

仏教	
今竹 良希	浦安 1団
井原 綾子	市原 6団
森 皓平	市原 6団

仏教	
重田 尚杜	松戸 10団
高橋 尚也	松戸 10団
長田 環	千葉 27団

仏教	
福田菜衣子	千葉 1団
加茂 直樹	柏 1団

キリスト教	
岡田 実	八千代 2団

富士章を受章して 松戸・鎌ヶ谷地区 松戸第6団 ローバースカウト隊 牧内 謙太

ベンチャースカウト活動の最後に富士章という名誉ある章をいただけたことを心より嬉しく思います。また富士章への挑戦は自分の将来へ繋がる一歩となりました。私はデザインに興味があり、アワードでは「自隊のチーフ作り」に取り組みました。その中で自分の描いたものを、実際に形にするためには相当な時間と手間を費やすことを学びました。

そして裁縫の知識が全くなかった私を一から導いてくださった方から、モノづ

くりに対する大切な心を教えていただきました。

この章は決して自分一人で成し遂げたのではなく、多くの方々のおかげにより取得できたと心から感謝しています。途中で何度か諦めかけましたが、完成したチーフを渡した時のリーダーと仲間のお顔をみたら、チャレンジして本当に良かったと思いました。

もし今何に挑戦するか悩んでいるスカウトがいましたら、難しく考えず、自分

の好きなことと興味のあることから取り組んでみてほしいです。きっとそれは将来への大きな財産となるはず

です。私は少しでもその挑戦の手助けができたと思います。



わが地区自慢のキャンプ場紹介

東葛地区柏第10団 「おらが自慢の野営場」

柏第10団の野営場は、柏市と我孫子市の間を東西に横たわる手賀沼の南岸、柏市大井の林の中にあり、約30年ほど前に地元の篤志家に土地をお借りしてスタートした。

20年ほど前200mほど山奥側に移ったが、以来、地域の皆様のご理解を頂戴し、この大井の林の中で活動している。

市道から林の間の道を50mほどゆるゆると登ると、スカウトハウスを囲むように広がる野営場に到る。スカウトハウスは育成会が中心となって自力で建てたもので、20帖程の部屋と8帖程のベンチャースカウト・ローバースカウト専用の部屋、6帖程の倉庫



が付属する。

野営場には、5人用のドームテントが5張り程度設営できる場所と炊事場所やトイレがある。ピーバースカウトやカブスカウトが遊ぶのも、専らスカウトハウス周辺の野営場で、団最大の行事である12月に行うスカウトまつりもこの野営場を中心に行っている。

更に林の中を100mほど進むと、テントが5張り程設営できるベンチャースカウト・ローバースカウト用の野営場がある。ここは立ち木に囲まれて、スカウトハウス側から全く見えない。柏第10団では、ベンチャー章の取得時にはこの野営場に一人で1泊キャンプするのが慣わしだ。

筆者(ピーバースカウト隊長)は、このベンチャースカウト・ローバースカウト用の野営場につながる林の道がとても好きだ。スカウ

トハウス辺りでは街のざわめきがかすかに聞こえるが、この道から野営場にかけては、人の気配がせず、風で木の枝の擦れ合う音、靴で踏みしめる落ち葉の音しかしない。上を見ると、木の枝の間を遠く雲が流れるのが見える。

ピーバースカウト達には、なかなかこういった風情を感じてもらうのは難しい。ローバースカウトまで大きくなって、ある日一人でキャンプする日、林の雰囲気を感じてもらえるといいなと思っている。



キャンプ場問合わせ

柏第10団 団委員長
新垣 明 04-7191-1209
キャンプ場所在地
柏市大井2480番地

千葉県連盟団委員長会同報告

去る2月12日に千葉県青少年女性会館に於いて、新任団委員長の集いと千葉県連盟団委員長会同が開催されました。

新任団委員長の集いには団委員長8人が参加、理事長、県連盟コミッショナーらと意見交換を行いました。また団委員長からは団運営の苦勞、加盟員増加への熱意が語られました。

引き続き団委員長会同が行われ、県内115個団のうち団委員長78人が出席、これに加えて県連盟役員、地区コミッショナーなど合計108人が参加しました。

始めに山田龍雄理事長から、日本連盟

の最新動向や来期事業計画案と長期視点からの運営方針、千葉県連盟の加盟員推移と団の状況などについて説明があり、加盟員増加と富士スカウトを増やそう、それには団の充実からという話で挨拶を締めくくりました。

次に伊藤知県連盟コミッショナーから、新指導者養成体制についての説明と団委員長・隊長の表彰制度、ベンチャー部門の進歩プログラム改定などの説明が行われました。

この後、「苦境の中でもスカウト数が増加している団、優良団の話」として、千葉



第18団石澤潤一氏、柏第7団高橋雅彦氏、松戸第1団片平紀行氏の3人の団委員長から発表がありました。

石澤団委員長からは、スカウト数を増やした今、現状維持への苦勞談。高橋団委員長からは地域密着とホームページの充実が鍵であること。片平団委員長から

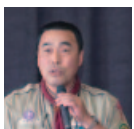
は安定した団の地域での存在感や逆に問題点など、参考になる内容が語られ、盛会のうちに終了しました。



伊藤県連盟
コミッショナー



千葉第18団
石澤潤一氏



松戸第1団
片平紀行氏



柏第7団
高橋雅彦氏



山田県連盟理事長の挨拶

新 地区だより

南総地区

地区カブラリー時のセレモニー



「地区の特徴」

当地区は千葉県の南側の約1/3を占め、東は太平洋に、西は東京湾に面した自然豊かな広い地域です。この広い地域の中で、9ヶ団が活動をしています。また行政区域は12市町と多く、その内6市にボーイスカウトの団があります。

生い立ちは、25年前の県連盟地区再編の中で、旧安房地区と上総地区の一部が一緒になり、南総地区としてスタートしました。

「最新事情」

一部の市では人口の増加に伴い、児童生徒の増加が見込まれていますが、ほとんどの市町は高齢化が進み、子供

数の減少が著しく、スカウトの確保に苦勞していますが、各団とも全員一丸となって活動しています。



地区ビーバーラリー
「恐竜を探せ」

「地区の行事等」

多勢の仲間と遊び・学ぶことでスカウト活動の活性化を図り、仲間を増やす目的でビーバースカウト・カブスカウト部門夫々で、年1回の合同隊集会を実施しています。ただ移動距離が長く時間を要するため、十分な交流時間が確保できないのが残念です。



地区ビーバーラリー開会式



地区カブラリー活動

	団数	隊数	団委員	指導者	スカウト	計
登録数	9	40	96	146	292	534

(加盟登録状況)平成24年度年初現在

編集後記

今回の特集記事、「ボーイスカウト隊 我ら班長!! Patrol Leader」は千葉県連盟の基本方針である班制教育の徹底を踏まえ、普段のボースカウト活動の中から班長としての思い・抱負・苦勞話などを紹介してもらいました。

限られた紙面構成上、どうしてもカラーページとモノクロページに振り分けなくてはならず、図らずもモノクロページになった地区の皆様には、お詫び申し上げます。公平に抽選と言う方法もありますが、今回は千葉県連盟の地区の順番で掲載させて頂きました。この企画が好評で続編掲載があれば、順番をずらし調整して行きたいと思っています。

第2回千葉県ベンチャー (3月30日～4月1日)の記事掲載のため、発行日を一週間延ばしました。

編集長 上野 孝